令和２年 10 月 12 日
公益財団法人日本少年野球連盟

ガイドラインにおけるQ&A

Q1:基本距離に配慮して選手も指導者も練習中にマスクをしないとしているが「指導者等は、指導中はマスク着用を基本」とするのはなぜか?

A1:こどもより大人がうつす確率が高いこと。さらに指導中は近距離になったり、大きな声を出したりすることが多く、選手に飛沫が飛ぶため基本をマスク着用とした。周りの選手との距離が 5m以上とかであれば問題はないが、練習中に基本距離を常に意識して行動することが困難なためそう規定した。

Q2:基本距離を確保できなければ、絶対マスクは必要か？

A2:ウィルスを沢山含んだ飛沫は約 1.5mで放物線を描いて落下することから屋内では約 2mをソーシャルディスタンスとしている。一方、屋外では風もあり拡散されるのでできれば１m間隔と言われているが、少年野球は声を出すことを基本にしてきたので、できる限り距離をとった方が良いと考える。今回、選手は練習や大会は屋外かつ常時密接にならないと考えるため絶対にマスクは必要とは言い切れない。このため、双方の理屈から基本距離「程度」をとればマスク不要とした。
　なお、こども同士での感染の可能性はグランドより、グランド外での密着や近距離での長時間のおしゃべりや食事中に会話しながら食べる飲食時に注意すべきと考える。

Q3:旧ガイドラインでは大会時等に捕手は一人で準備するとか、都度の道具の消毒等の規定があっが、今回外した理由は？

A3:屋外での活動であり、こども同士の感染が起こりうる可能性が高いのは、飛沫感染より、接触感染と考えたこと。また、濃厚接触の定義では、マスクを外しての近距離での 15 分間の接触とされていることから捕手の準備は短時間であることから特に定めず、また、接触感染を避けるために道具等の消毒が必要ではあるが、それより、道具を触った手をこまめに手洗いし消毒する方が、効率的であるため規定を削除し、新たに新ガイドラインに「１－⑷手洗い・うがい、消毒の慣行」を追加した。道具はかたづけの際に備品等の消毒と合わせて消毒を行えばよいとした。

Q4:旧ガイドラインや通達では、大会参加同意書が義務付けられていたが今回は規定していないのはなぜか？

A4:選手や保護者は大会に出たいと思うのが通常であり、全員に毎回、負担がかかるため。ただし、感染拡大期になると親にも不安が広がり、現に連盟にも投書が寄せられて

いる実態も鑑み、同意書という形ではなく、新ガイドラインの基本事項の（１）-②「活動への参加を強制するのではなく、選手の保護者から同意をとり、チームとして常に参加の意思を確認しておくこと」を設け普段からのチームの確認事項とした。ただし、大会によっては主催者側で細目等を設けて同意書を取ることまでは否定しない。

Q5:旧ガイドラインでは「試合間隔は試合時間含め３時間を取り」という項目が削除された理由は？

A5:感染防止対策についてボーイズリーグ内で一定の認知がされたこと。屋外でもあり、密にならない状態を作れる球場周辺の環境がある場合も多く、一律に時間を規定するとローカル大会の開催や支部予選の日程が取れなくなる場合も出てくる。このため、新ガイドラインの２-⑵-③「試合開始１時間前に大会本部に到着すること。早く到着した場合は、大会本部・球場付近には集合せず、離れた場所で選手、保護者等に密を避け待機させること」とした。なお、大会によっては待機場所に苦慮する場合等があれば、別途細目で旧ガイドラインのような措置等を規定すればよいと考えている。

Q6:「新型コロナウィルス感染症対策当日参加名簿(別紙 1)」に当日の体温を測る項目があるのに、大会会場での入場前にも体温を測るというのは、二度手間であり、どちらかに統一した方が良いのではないか？

A6:別紙１はチームでの体温管理を徹底させるもので、新ガイドライン 1-⑴-②にも規定しておりチーム管理の一環である。一方で球場責任者にも管理義務があり、体温計測を行うということが感染防止対策を講じている大会として社会に認められるため。

Q7:旧通達では保護者等観客の 25 人制限があったが、今回規定がないのはなぜか？

A7:新ガイドラインどおりにチームが徹底すれば、密にもならず、基本、屋外での観戦という環境を考慮すれば、一律に人数制限を設ける必要がないと考える。また、新ガイドラインでは屋内での規定も設けており対応可能である。
　なお、球場によっては人数制限がある所もあるので、その場合は大会運営者が別途細目等で規定すればよい。

Q8:新ガイドライン 4-⑴は濃厚接触者の定義であり、チーム関係者はこの時点では濃厚接触者の濃厚接触者となり、チーム全体の活動を停止する必要があるのか?

A8:保健所等の調査に日数がかかるため、当該濃厚接触者がすでに発症しているのか、感染可能時期はいつなのか等の状況が正確に把握できないため、チーム内の誰かに感染させた可能性も否定できない状態であり、情報が入ってきた時点で活動を停止させることにより感染拡大をいち早く防止するため。後日、保健所等の調査結果により、感染の可能性が判断され、その時点で、活動開始時期を検討すればよいと考える。